



閉じる



ダウンロード



印刷



文字拡大



文字縮小

芦屋市 令和 4 年 3 月 定例会（第 1 回） 03月22日－04号

P. 176 10 番（大原裕貴君）

◆ 10 番（大原裕貴君）＝登壇＝会派、日本維新の会を代表し、各会計予算について、賛成の立場で討論を行います。

まず、予算全体について、基本的には限られた資源を有効に活用すべく、事業の取捨選択をしながら堅実な財政運営をされているものと評価をいたします。

社会情勢として、依然として新型コロナウイルス感染症が収束しておらず、経済に対しても少なからず影響を与えている状況ではあるものの、本市においては令和 3 年度予算同様、歳入の多くを占める市税収入への影響は軽微であると見込まれています。財務省や経済界の見込みにおいても、同様に回復傾向であると示されているため、市の予測が大きく外れることはないだろうと受け止めております。

しかし、個別に見た場合、新型コロナウイルスによる減収に苦しむ市民が存在しているのも事実です。市においては、引き続き国・県と連携し、効果的な支援策についても御検討いただきたく存じます。

また、新型コロナウイルス収束のめどがついていないことを鑑みると、新年度においても緊急的な歳出が生じる可能性があります。新年度予算においても、令和 3 年度予算同様、予備費を多めに配分しており、対策を講じておられると承知していますが、引き続きの慎重な財政運営を要望します。

新年度においては、大学等受験料支援金制度や A I チャットボットなど新たな事業展開のための予算も講じられています。特に、大学等受験料支援金制度については、その前身である大学等入学支度金制度が創設された際と同様に、国による支援の隙間を埋める事業となっています。

全国に先駆けて本市が導入したということは、とても素晴らしいことではありますが、本来こうした支援は、居住地にかかわらず広く支援を受けられるようにしておくべきです。大学等入学支度金制度のときと同様、市の取組が国に広がっていくような働きかけも実施いただくよう、要望します。

J R 芦屋駅南地区市街地再開発事業については、予算特別委員会にて各種予算が可決すべきものと決し、ようやく前に進むめどがつきつつあると受け止めています。しかし、この 2 年間、停滞してきたことで本市が失ったものは決して小さくありません。

3 月 26 日には、J R の駅舎の供用も開始し、駅舎と市の事業の対比という意味で市民の厳しい目もあるかと思いますが、少しでもリカバリーができるよう取り組んでいただくことを要望します。

将来的には、コロナ禍による流通への影響やウクライナ情勢による原油高の影響などといった世界情勢によるリスク、また、公共施設更新に係る費用や 2025 年問題による社会保障費の増大など、本市としても対応していかなければならない諸問題を抱えており、将来を見据えた財政運営が必要です。安定的かつ持続可能な行財政運営を堅持していただきたく存じます。

また、将来的な安定財政を目指す上で必要となるのが、新行財政改革基本計画の達成です。しかし、本来、行政改革は財源捻出を目的に据えるべきではありません。目的はあくまで、より効率的な行政運営を実施し、持続可能な行政運営をしていくということにあります。数値目標の達成を前面に押し出すあまり、行政サービスが低下してしまつては本末転倒です。本来目的を見失うことなく取り組み、その結果として数値目標の達成というあるべき姿を目指し、安定的かつ持続可能な行財政運営のための推進力としていただくことを要望し、賛成討論といたします。